

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の実践者研修へ2名受講し、理念に基づいてケアの実践に繋げるように日々のミーティングで共有し実践している。	理念は開所時に作成し、玄関や居間など見やすい所に掲示するとともに、問題があった時の職員間の話し合い時に確認しています。	理念を定期的に確認する機会が現在は無いので、毎月のミーティング時に確認するなどの取り組みを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の区長さんを始め、地域のお茶の間クラブの世話役の方と連携し楽しいひと時が過ごせている。また、日中お天気により散歩も行い地域の方との会話交流もある。	地域のお茶の間クラブに参加したり、地元の小学生が事業所に来てくれるなど地域と日常的な交流が行われています。今後は老人会との交流が図れるように検討を進めています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方を招きボランティアさんの歌を聞いて過ごしたり小学生が休日や学校帰りに来訪しゲームや歌など一緒に歌い理解や支援を頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、区長、地域包括支援センターの方々にサービス状況、健康状況、レク等の報告を行って献立表も各家族へ郵送し意見を聞き毎月の暮らしぶりや健康状態、写真も入れて家族へ知らせている。	運営推進会議には包括支援センター職員、区長、民生委員などに参加していただき、2ヶ月に1度(奇数月)行われています。ヒヤリハット・事故報告などの状況報告や広報誌を配布するなどして事業所の実情をご理解していただいています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢課や包括支援センター等、状況に応じて相談、連絡を行っている。	介護高齢課や包括支援センターとはご利用者の状況に応じて連絡・相談が行える関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、スタッフ全員で目配り、気配りし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	法人の新採用職員研修で身体拘束について研修をしており、また研修に行った職員からミーティングを通じて研修の内容を報告しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	普段より言動にきをつけて言葉の暴力も虐待につながる事を常に伝えており取り組んでいる。	法人の新採用職員研修で虐待についても研修をしており、毎日の夜勤帯の報告でも確認をとるようにしています。また、言葉の扱いについては管理者が説明し、徹底しています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者様については、現状は必要とはされていないが、支援できるように努めている。スタッフが学ぶ機会を設けていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約、内容の変更があれば、家族へは説明し、その都度不明な点があれば説明し了承を得ている。また、いつでも不明な点は確認するよう伝えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時は必ず居室を尋ね要望や現状報告をさせて頂き意見を聞き反映させるように努めている。	契約時の苦情相談窓口の説明や、運営推進会議でのご家族からの意見収集をしています。また、毎日のミーティング時にご利用者に関して得た情報は日報に記録するようにしています。	まだ家族会の開催がされていないようなので、いろいろなご家族の意見を吸い上げるためにも家族会の開催をされることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝と月一回のミーティングを行って随時意見交換、ディスカッションし、反映し働きやすい環境にしている。	年2回の管理者との個別面談、月1回のミーティング、日常のコミュニケーションを通じて、職員の意見や提案を運営に反映させる取組みがされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常にヒヤリングを行っており意見を聞き、モチベーションが上昇するように、社の上司へも伝達、報告し、雇用条件等調整し環境・条件整備している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフのレディネスを把握し個々が目標設定し取り組み、外部研修、社内研修に参加させている。また、ヒヤリングを行い方向性を見出せるような指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度、村上、岩船地域の8グループホーム管理者会議開催し毎月同法人の他のグループホームとも管理者会議開催し情報交換、意見交換を行い質の向上を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病状を見極めながら、表情、態度等気配りし表出し易い雰囲気環境作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時、相談に応じながらアドバイス等も行っている。投げかけられた内容によっては即答できない場合後に必ずきちんと回答し信頼関係を構築している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接で意向を聞き、サービスの利用を含めた対応できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づいて家族の一員として接すると共に言葉使い、態度も上から目線にならないよう努めている。掃除や食器洗い等も共に行えるよう支援している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ短時間でも良いので面会を依頼しており必ず居室等で過ごして頂き、日頃の生活状況をお知らせしている。月一回生活状況を手紙で情報提供している。	入居されるときにご家族の協力が不可欠であることをお願いし、都度相談させていただいています。また、管理者が毎月ご家族にお手紙をお送りしご利用者の暮らしぶりを伝えていきます。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て自宅やドライブへ出かけて頂いたり知人の面会時は再来訪の依頼できるように努めている。	個別の外出はできる限りご家族に協力をいただき、お墓参り・外食・美容室などに連れて行って頂き、馴染みの関係を継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を配慮している。スタッフが同席し、会話の仲介や、孤立しないように会話の中に入っていけるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移行された時に訪問やお見舞いに伺ったり、家族等の来訪もあり相談・支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通し、意向を汲み取るように努めている。センター方式を活用し始め、スタッフ間で共有し努めている。	入浴時など1対1でリラックスして話せる場を大切に、会話の中から訴えたいことを見逃さないよう注意し、得た情報はケース記録やモニタリングにて共有がされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネよりの情報提供や面会に来られた家族等より情報収集に努めている。	アセスメントの際、センター方式のシートをご家族に記入してもらい把握に努められています。	センター方式を採用していますが、情報が足りず記入できていない箇所も見られますので、よりシートの活用できるように検討されることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング・申し送りで状態を把握したり、ケース記録を行い各スタッフが確認している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングミーティングで各スタッフの意見交換をしている。また、本人・家族より意見を伺い反映できるように計画している。	ご利用者の状況によっては1月に1度モニタリングを行っており、居室担当者が主になりサービス担当者会議も2ヶ月に1度行っています。	モニタリングの結果のケアプランへの反映がされていないところもありますので、しっかりと連動するように検討されることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース記録し、ミーティング・モニタリングを実施しケア実践に向けて計画修正を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズを踏まえて、対応できるよう支援している。家族が遠方での対応に対しては、電話や書面でスピーディに組み組みを行い支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月5日地域のお茶の間クラブへ参加したり地区の運動会・文化祭等は趣味の書道や工作を出品し、皆さんと共に見学参加し楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同行受診時やヘルパー支援同行時も情報提供書を記入し持参して頂きスムーズに医療が受けられるように支援している。	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医の受診を基本として、医師への相談・情報共有が行われています。医師へは情報提供表を使用し、ご利用者の状況が分かり易いようにされています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時は家族へ状態を伝えたり、直接看護師へ電話等で伝達し適切な情報を提供している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院一週間後にはMSWと連絡を取り、主治医・看護師・家族を交えて今後の方向性をカンファレンスし、退院が決定したら再度カンファレンスを開催している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時や予測される疾病の状態について事前に家族へは説明をし、今後の方針についてもガイドラインを共有し決定している。	全てのご家族に契約時に事業所のターミナルケアの考え方について説明し、ご理解を得ています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、消防署での講習を受講し実践に備えている。	スタッフ2人が担当になり、マニュアルの確認を行っているほか、AED・救急救命の研修を実施するなど適切な対応がとれるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練をスタッフ全員で行っている。昼夜間も想定し、近隣住民も参加して頂き何時でも協力体制がとれている。	年2回の避難訓練の実施、運営推進会議を通じた地区への災害時の協力依頼が行われています。	地震を想定した訓練がまだ行われておりませんので、計画し実践されることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩という事を念頭におき、言葉使いにも気配りをしている。	個人情報の取扱いに関しては、プライバシーポリシー・個人情報の利用目的に沿った対応がされています。また、声かけや写真の使用の同意などの配慮も行われています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を同じ高さに心掛け、言動に注意し笑顔で接するように努めている。2～3択で、選択できるように自己決定を促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々体調や状況を見て声掛けし、天候の良いときは散歩へ出掛けたり声掛けを各々の意向に合わせて休息や入浴時間も調整し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度訪問理美容を利用して頂き、毎朝髭剃りを支援し服装等については、本人の好む服や配色を選択支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で嗜好品を伺い、可能な中で献立に取り入れれたり盛り付け・味付け・配膳・食器洗浄食器拭き等スタッフと共にさせて頂いている。	ご利用者の状態に合わせ、可能な範囲で食事の準備や味付けを職員と一緒にしています。また、年に5回ほど外食の機会を設け、ご利用者に食事を楽しんでもらえるように工夫しています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立について、管理栄養士へカロリー計算を依頼している。また、各々の口腔状態により、刻みや軟菜等工夫をしている。水分摂取していただけるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食前イソジンで哈嗽して頂き、3食後歯ブラシを用いて口腔ケアを各自で行って頂いている。夜間はスタッフが入れ歯洗浄剤で消毒を毎日行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、声掛けしトイレ誘導を行い見守り・介助し自立支援に努めている。	排泄チェック表による排泄パターンを把握、さりげない声かけでの誘導を行うことで、リハビリパンツの使用を減らす試みがされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用されている方もいるが、野菜類を出来るだけ献立に取り入れたり、水分補給は常に嗜好品を交えて摂取して頂いている。また、周辺の散歩も促し便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に声掛けし、午後より入浴されている。入浴を拒否される方は、無理せず声掛けやタイミングを見て誘導支援している。	入浴時間は午後からになっていますが、一律の対応ではなく、ご利用者の好きな時間に入れるよう支援されています。また、入浴を拒む人に対しては、タイミングや声かけの方法などを職員間で共有し、無理強いせずに誘導されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態を把握し、食後等は居室・ソファ・炬燵等で臥床して頂き、室温・温度・掛け物等で環境を整えている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬と共に添付してあるカードを確認している。症状の変化時は記録し必要に応じ、家族へ連絡し受診して頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を生かしたり、女性の入居者様は、家事(食器洗浄・洗濯干し・たたみ物等)自分の役割として捉えられて行っている。日本庭園が敷地内にある為、お弁当を作り莫産を敷きピクニック活動も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や要望は少ないので、天候を見て散歩や庭での日光浴をお誘いしている。また、1回/Mはバスバイクへ出掛けたり、家族の協力でドライブへ出掛けている。	紅葉見学やぶどう狩りなどの行事としての外出、買い物や外食などの日常的な外出支援の他、自宅へのドライブや敷地内の庭園での日向ぼっこなど、屋外に出かけられるよう支援が行われています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て、各々のおこずかいとしてホームで管理しているが、自身でも小銭を持って頂いており買い物時は嗜好品を購入できるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	賀状を書いて頂いたり、直接電話でお話して頂く機会を設けている。また、本人が希望してきたりホームより家族へ電話をした時には代わり直接お話を頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理・整頓し、室温・温度のチェックを常に行っている。野草や季節の草花と香りを楽しんで頂き、室内装飾も季節を取り入れるように努めている。	居室に居ながらにして四季を感じられるように配慮し、花や行事に関連する装飾が程よくされています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファと和室は炬燵を配置し、各々一緒にお茶を頂いて過ごされたり、各々の居室で自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具・布団・ベット・椅子等居室に配置されており、その人らしい環境作りをしている。	居室内はご利用者が使い慣れた物を持ってきてもらい、「その人らしい空間作り」の工夫がされています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室は、目線の高さに本人の名前やトイレの表示を大きくしたり動線は常に物品を置かないように整理・整頓に努めている。		